

# 回想法センター・創り・8月号

平成28年 7月27日発行  
発行 龍ヶ崎市回想法センター  
龍ヶ崎市平台 5-9-7  
電話・FAX 0297-65-4443  
e-mail pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp  
h p www.piakaiso.sakura.ne.jp

## 夜中の熱中症にご用心を

### 奇跡が起きました

4月、心不全を起こし入院した母ですが、食事は果物やゼリーのようなものしか食べなくなり、体もこれ以上瘠せるところがないほど瘠せてしまいました。声かけにも反応が鈍くなるばかりで、「いよいよかな」と感じることが多くなり、兄弟や、孫、ひ孫を呼ぶことが多くなりました。家族は、何とかご飯を食べさそうと思いついたのがお米でできているお煎餅。お醤油の香ばしい匂いが食欲をそそったのか、お煎餅は食べるようになりました。でも、食べる量はがたと減りました。

ところが6月末に「おにぎりが食べたい」と、夜中に言い出し、半信半疑でコンビニのおにぎりを渡したところ「あ～美味しかった」と半分食べて眠りにつきましたが、朝はびっくりです。自分から起きてきました。そして、おにぎりを1個完食。それからは、また、家族と同じご飯を食べるようになり、自分でトイレに行こうと起き上がるなど排便を教えるようになりました。写真を見ても「誰なの？」と名前が出てこなかったのに、ご飯を食べるようになったら名前が出てくるなど記憶も戻り、日中はベッドに腰掛本を読むようになりました。何が母を甦らせたのかは分かりませんが、人の寿命は「神のみぞ知る」ことかな？そんな気がしています。

### 「命」を抱きしめる

大腸のガンの再発、糖尿病による壊疽で右足を切断、食事を取らず強い痛みを訴え眠れない男性。「入院していてもこのままなら」と、家族は在宅医療を決断しました。訪問診療と訪問看護(週4回)が始まり、家族が勤めながら昼食の介助に帰りますが、男性は、日中はベッドの上で過しています。病院では毎日点滴をしていましたが、食事は取れるので点滴もやめました。痛みを訴えることもなく病状も変わらず3ヶ月が過ぎました。左足も変色してきましたが痛みを訴えることはなかったので「このままで行きましょう」と。「余命2週間」と、退院のときいわれたましたが自宅で1年半を過ごしました。血液検査の結果、貧血が進んでいることがわかりましたが「これが在宅医療ですね」と、家族は見守りを選択しました。ある朝、男性は、朝食を食べ終え家族が昼食の支準備をしているときに呼吸が浅くなり静かに息を引き取りました。あまりにも突然の、あつけない幕引きでしたが、家族は呆然とするもそこには悲しみよりも安堵感が漂っていました。

住み慣れた我が家で、家族と一緒に命の持つ自然さに任せて、訪問診療・訪問看護を利用しながら人生ドラマに幕を引けたらいいな～と思いました。

### 8月の予定

\* **おしゃべりサロン** 2時～4時

開催日 8月 8日(月)、22日(月)

開催場所 龍ヶ崎市役所地下食堂

\* **認知症家族会あおぞら** 1時30分～15時

開催日 8月 3日(水)、9月 7日(水)

開催場所 龍ヶ崎市民活動センター・多目的室

\* **笑顔屋** 8月 17日(水) 10時30分～12時 龍ヶ崎ショッピングセンター**リブラ** 1階

\* **川柳カフェ** 8月 20日(土) 10時30分～12時 龍ヶ崎ショッピングセンター**リブラ** 1階

問い合わせ 龍ヶ崎市回想法センター 電話 080-4209-5708